

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790200117		
法人名	社会福祉法人 啓和会		
事業所名	グループホーム東山しょうぶ苑		
所在地	福島県会津若松市千石町5-8		
自己評価作成日	平成28年9月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成28年10月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

サロン開催や地域行事への積極的な参加等により、地域とのつながりを大切にし、民生委員や区長にも理解頂き、協力体制が整っている。又、職員一人ひとりの特性を生かし、チームワークを大切にしながら、「笑顔」をモットーに利用者様の個々のニーズや家族の要望に柔軟に対応できるよう努めている。

地域密着型サービスの意義と役割を理解し、事業所の持っているちからを活かしながら地域に貢献するなど、積極的に行事に参加し交流している。管理者、職員は、利用者ひとり一人に寄り添いその人に合ったケアに努め、その人らしく穏やかに過ごせるよう日々取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所当初につくった理念を元に、日々の目標に「笑顔」を掲げ、職員全員で共有し、理念に基づいたサービス提供に努めている。	管理者・職員は利用者がその人らしく暮らせるよう、思いを持ち寄り作成している。利用者の思いをくみ取り、一人ひとりにあわせた話し方や関係性を保ち、互いに助け合い支え合いながら、ケアの向上に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の運動会や歳の神等に参加している。公民館で月2回開催されている「ひがしカフェ」にも参加している。また、「サロン花しょうぶ」を開催し、利用者様と地域の方々との交流を継続している。年1回の地域の文化祭には継続して利用者様の作品を展示している。	職員は、東山・人と地域をつなぐ会に参加し、認知症について話し理解をしてもらえるようにしている。近隣の方がボランティアで利用者と話したり食事をするなどしている。ボランティアクラブの高校生が訪問してくれ交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センターや民生委員の方々の協力のもと、近隣の一人暮らしの高齢者に向けて、サロン開催を継続している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方々に、ホームの取り組みや状況報告、ヒヤリハット等報告、相談を行い、委員の方々の助言等を活かしながらサービス向上に努めている。	消防団と協力体制を取れるよう提案があり、団長に見学してもらっている。水害を想定した避難手順や具体的な策を作ってはとの話しがあり、作成を検討している。会議の後に、芋煮会に参加して貰い利用者と交流している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	「東山・人と地域をつなぐ会」に引き続き出席し、地域の情報や情報交換等に努めている。8月には、市主催の第1回認知症ケア多職種連携推進研修会に出席し、事業所案内のパネル展示にも協力させて頂いた。	研修会の日程や内容について連絡で電話で頂いたり、必要に応じて相談等の連絡をしている。包括支援センターの呼びかけで、計画作成担当者会議に参加し、情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が正しく理解しており、玄関ホールにはセンサーを設置し、職員が人の出入りに気がつくようにし、日中は施錠していない。日々の関わりや業等についても、身体拘束のないケアを心がけている。	身体拘束はしないことを基本にしている。言葉の拘束については、気づいたときは職員同士互いに話し合うようにしている。一人歩きする方には、目的があることを理解し、本人の思いを損ねないよう寄り添い一緒に出かけたりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が正しく理解しており、職員同士のコミュニケーションを良好にすることで、相違しやすいくストレスを溜めない職場づくりに心がけている。又利用者様へのケア方法については、その都度話し合って改善できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のある利用者様がない為、支援を行っているが、成年後見人制度のパンフレットを事業所内に掲示し、理解できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込み時に、概ねの説明を行い、現段階で困っていること、不安な点等伺うようにしている。入所前には、御家族に十分に説明し、理解、納得して頂いた上で契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりや会話の中から思いや要望を引き出し、運営に反映できるよう心がけている。家族については、面会時や電話連絡等で近況報告を行いながら、意見や要望を伺ったり、何気ない会話の中からも気が付いた点については、職員間で共有し運営に反映できるよう努めている。	意見や要望があるときは、自由に声をかけてもらえるよう伝えている。帰宅願望のある利用者の家族が面会に行きたいと言う思いを、芋煮会に参加を呼びかけ会えるよう工夫をして希望を叶えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や日々のミーティングの時に、職員の気付きや困っている事、意見や提案等を話し合い、運営や利用者一人ひとりのより良いケアに反映している。	意見や提案は、すぐ実行するようにしている。利用者の口腔ケアについて提案があり、話し合い取り入れている。職員にアンケートを行い、法人本部で検討し要望を意見を反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者(理事長)は、出来る限り現場に出向き、職員や利用者とのコミュニケーションに努めている。その中で、代表者は自ら法人運営に参画し、職員の働く意欲向上や質の確保に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で内部研修を計画し、毎月各部署より1名参加して、各部署で伝達研修を行いスキルアップに努めている。外部研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の小規模施設で管理者会議を開催し、場所を変えながら各施設を見学したり、管理者同士の情報交換をしている。その中で、困難事例等を相談、検討し、サービスの質の向上に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や御家族、及び担当介護支援専門員等から入所前の状況や状態を伺い、サービス内容に反映できるようにしている。又、本人の表情、動作に目配り、耳を傾けたりと、少しの変化にも気づき対応できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み段階や実態調査、契約時等にこれまでの介護の経過やご苦労を伺い、現在困っていること、不安なこと、要望等を傾聴し、今後の援助に反映できるよう話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談を受けた際に、本人や御家族の状況や状態を確認し、どのようなサービスや支援が必要なのか見極め、他のサービスや施設等を紹介することも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が有する力を発見し、共に行い、日常生活の中で得意とすることに役割を持って頂き、協力しながら生活している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回のお便りでの近況報告や、少しでも気づきや身体的な変化があれば、その都度、面会時や電話等で報告し、常に共有し、共に協力して頂けるよう取り組んでいる。また、誕生会や芋煮会等に招待し、絆を大切にできるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、職員間でも共有、把握し、足を運んだり会話の中に取り入れている。又、気軽に訪問して頂けるよう環境づくりにも努めている。	家族・友人・昔の職場の人が訪ねてきてくれる。なじみの美容室に職員と一緒に出かけするなどしている。誕生日に届いた花のお礼に、職員が電話をし本人も出て気持ちを伝えるなど、これまでの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や状態の把握、利用者様同士の人間関係を考慮しながら、家事やレクリエーション、散歩等を行い、孤立せず皆で楽しめる雰囲気づくりに努めている。利用者様同士が声をかけ、支え合う姿が見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や状態変化等により退所された後も、次の施設の紹介や申込み、及びその施設等への情報提供等の支援や相談を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3か月に1回のモニタリングにより意向をお聞きするのはもちろんのこと、日頃の生活の中で本音や意向を聞きだし、職員間で共有しながら思いや意向の把握に努めている。	職員は目線を合わせ、日々の関わりの中で寄り添いながら声をかけ、思いの把握に努めている。気持ちを伝えにくい方には、表情やしぐさから本人の思いをくみ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に御家族、担当ケアマネや利用されていた施設から情報を頂きながら、馴染みの暮らし方や生活環境、サービス利用の経過等の把握に努め、落ちついた生活が継続維持できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方にあった落ち着いた生活が維持できるよう、環境変化による状態の観察や、有する力等の早期発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族が訪問された際など、何か変化があれば報告させて頂き、常に情報交換を行い、また、日頃の本人の変化にも早期に気付き、より良く暮らすためのケアのあり方を検討し、介護計画に取り入れている。	本人・家族と話し合い、その人らしく暮らせるよう個別の具体的な介護計画を作成している。状態変化に応じて、家族に連絡し見直しをしている。新しい方で入居前の情報と実態が異なるときは、家族に知らせ本人本位の計画作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送り、職員会議等の他にも、日頃から日々の気づきや問題点、改善点等について話し合い、申し送りノート等で即日に情報を共有し、介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズの早期発見に努め、可能な限り柔軟な支援を行えるよう、一人ひとりの状態把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域社会との繋がりを継続できるよう、苑でのサロンの実施や外部のサロン、地域公民館で行われているカフェ、地域行事へも積極的に参加し、生きがいと張りのある暮らしができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前より、本人、及び御家族の希望を優先し、状態、状況によっては相談しながら、その方にあった医療が受けられるよう考慮している。病状によっては、医療機関と連携を図り、より良い生活が送れるよう配慮している。受診結果は、職員間はもちろん、家族とも共有している。	職員は、本人・家族が希望する医療機関に同行し、受診できるよう支援している。専門医療機関には、事前に予約をするなど利用者の負担を軽減できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を受け、状態報告し指示を受けている。緊急時や職員では判断がつきにくい場合等には、24時間対応で訪問看護師の指示を受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、苑での状態を口頭や介護サマリーでスムーズに報告し、病院、ケースワーカー、家族と連携を取りながら安心した治療が受けられるように努めている。又、退院時には、カンファレンスを要望し、退院後も安心した生活ができるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制及び重度化・看取りに関する指針を定めている。契約時に、重度化についての対応を説明し、その都度相談、検討が必要になってくることも説明している。又、状態変化の際は、家族に報告、意向を確認しながら相談している。	状態変化や重度化した場合は、家族に日々の生活状況を伝え、思い違いの無いようにしている。医療機関と家族と事業所が連携し、安心してもらえるようにしている。職員は医療行為とケアの役割を理解し、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応マニュアルや応急手当のテキストを目につくところに掲示している。又、救急要請の際の為に、利用者様一人ひとりの既往歴や服薬情報の一覧表を電話の近くに置いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回防災訓練を実施している。防災時の連絡網には、区長、民生委員の方々に加わってもらっている。昨年の4月には、地域の消防団の方々に苑内見学をして頂き、アドバイス等も受けている。	消防署の協力を経て、避難や消火器の使い方などを訓練をしている。火元から遠くを通り避難することや、出口を確保して消火することなどのアドバイスを貰っている。職員は災害時の役割を理解し、リーダーを中心に行動するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの経験や知識を尊重すると共に、人格や誇りを損ねないような言葉かけや対応に配慮し、馴れ合わないよう心がけている。	その人に合ったことばを使い話しかけ、無理強いをしないで受け入れるようにしている。利用者同士で思い違いがあり、プライバシーを損ねるときは、職員が間に入り話題を変えたり、場所を変えたりして対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、一人ひとりの何気ない会話や訴えに耳を傾け、表情の変化や仕草からも思いや希望を引き出し、自己決定が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調やペースを最優先し、急がず無理強いのことなく、意思確認しながら、その人らしい暮らしが出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と一緒に買い物に行き、洋服等を選んで頂いたり、本人や御家族に伺いながら、訪問美容の利用を支援している。季節に応じてスキンケアにも努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日食器洗いや、食器拭き、野菜切り等、その有する力に応じて職員と一緒に頑張って頂いている。終了時には、感謝の気持ちを伝えている。誕生会には、利用者様の希望メニューや好みの食事を提供している。また、毎日の食事には、彩りや季節感、行事食などを考慮し提供している。	開所当初管理栄養士の意見を参考に、バランスを考え職員がメニュー作りをしている。食卓と一緒に困り利用者の食欲や食べることの関心を知り、食事を一日の大切な活動の一つと考え、楽しんで食事ができるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	継続して食事量や水分摂取量を毎食毎に記録し、体調管理に努めている。摂取量が少ない場合には、申し送り等により補給できるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせた口腔ケアの支援、声かけ、見守り、介助を行っている。義歯についても、その方の要望に沿うような支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの能力に合わせた排泄の仕方に努めている。また、時間を見計らっての声かけや誘導見守り等、自立にむけた支援を行っている。	入居時紙パンツだった方が、職員が日々の関わりの中で根気よく接し判断し、布パンツに替えることができている。失敗したときは自尊心に配慮し、周囲に気づかれないよう対応している。新しい方には、付き添いその人に合ったトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時には黒米を使用、入浴後には牛乳を飲用、野菜や果物も毎日かかさず取り入れたメニューの工夫や毎日のラジオ体操を行うことで便秘予防に努めている。便秘薬を服用している利用者様については、排便の間隔を把握し、便秘薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は毎日入浴できるよう準備している。一人ひとりの状態やその日の希望によって個々に支援している。しょうぶ湯やゆず湯等、楽しんで頂いている。入浴を拒否されていた方がいたが、根気よく声をかけ、自宅に行く等の工夫も行い、入浴していただけるようになった。	一番風呂に入った方が忘れて夕方も希望した時も、入浴して貰っている。入浴時に思いがけない話が聞けたり、鼻歌が出るなどくつろいだ時間を過ごしている。入浴したことを忘れる方には、いつもの習慣の飲みものを用意するなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、体調に合わせて声かけをし、休息して頂いている。又、夜間の状態を申し送り、その状況に応じて、日中、夜間と安眠の支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬による副作用はないか、常に利用者様の変化に気をつけ、少しの変化も見逃さないよう、職員間の情報のやり取りを大切にしている。看護師や医師との相談も密に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできること、興味のあること、得意とすることを生かし、張り合いや喜びを感じて頂けるよう支援し、日々楽しく笑顔のある暮らしができるよう努めている。受診の帰りにドライブにお連れする等、気分転換を図って頂くこともある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事や外食、天候の良い日は散歩等、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、本人の意向によりお墓参りや買い物の支援、外出、外泊等、御家族の協力も得ながら行っている。	桜を見に行ったり、近くのスーパーに洋服を買いに出かけ、本人の好みのものを選んで貰うようにしている。遠方に出かけるときは、行事担当職員が下見に出向いて安全・安心に外出できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、本人のお金の所持は行わず、施設管理とし、必要に応じて本人と買い物に出かけたり、希望のものを購入することで安心して頂いている。所持していないと不穏になる方は、居室に所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族が遠方在住の方や、なかなか面会に来られない方については、年に数回ではあるが職員からの提案で電話で話して頂くよう支援している。又、電話がしたい、手紙を書きたいと希望があれば、いつでも対応するようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面には、月々の行事の写真や利用者様の作品を展示、共通の空間には、団子さしやお雛様、七夕飾り等を飾ることで季節を感じられるよう工夫している。苑内に温度計や湿度計を置いて確認を行い、利用者様の表情等を見ながら快適に過ごせるよう配慮している。	地区の文化祭に出品した利用者の作品や、季節ごとの行事の写真が飾られている。一人ひとりがカウンターやソファでくつろいだり、畳の部屋で洗濯物をたたむなど思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室には炬燵、ホールにはソファスペース、台所にはカウンターを設置しており、一人ひとりが好きな場所で、思い思いに自由に過ごせるようにしている。利用者様同士で楽しくおしゃべりしたり、支え合ったりする姿が見られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	落ち着いて生活ができるよう、居室には利用者様の思い思いの物や使い慣れた物を置いて頂いている。仏壇を持参される方もいる。	居室入り口の小さな飾り棚に写真などを置いたり、好みののれんを掛け自分の部屋とわかるようにしている。衣替えは担当職員や家族が行い、整理整頓している。お掃除はできる方には、手伝って貰い清潔に過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	苑内は、すべてバリアフリーになっており、安全に移動できる。トイレに目印、居室を間違いない方のドアには名前を表示し、分かるようにしている。玄関にはベンチを置き、一人で脱ぎ履きできるようにしている。居室の掃除も柄の長いモップを使用することで、安全に行えている。		